

■インド：スマートグリッド実証試験の内容が明らかに

2012年3月2日付けのインド地元紙によると、スマートグリッドタスクフォースによって提案されていた同国初のスマートグリッド実証試験の内容が発表された。これはボンディシェリー中央直轄の電力省と送電公社（PGCIL）の間で、このプロジェクトの実施に関するMOU（覚書）が締結されたことに伴うもの。このMOUによると、実証試験は先進的メータリングインフラストラクチャ（AMI）や中央データ管理センターの導入が主になる模様。電力省は、このシステムの導入により、送配電ロスが22.6%から8.86%に低減し、料金回収率が90%から98%に改善することを見込んでおり、年間1億2,240万ルピー（約1億9,600万円）の利益が発生するとしている。実証試験への投資額は7億7,000万ルピー（約12億円）で、そのうち5億2,000万ルピーをPGCIL、残りを政府が負担する見通しである。スマートグリッドタスクフォースは8都市での実証試験を計画している。